

南長浜地域まちづくり検討会議（報告会） 議事録

I 日 時 令和8年3月17日（火曜日）17時30分～19時00分

II 場 所 BIWAKO PICNIC BASE（元浜町）

III 出席者 岩寄 博論委員（委員長）

谷口 嘉之委員 藤居 海好委員 今庄 啓二委員

今泉 翔一朗委員 市岡 敦子委員 熊谷 理美委員

茂森 仙直委員 瀧澤 佳那委員 小出 篤委員

【事務局】 未来創造部

政策デザイン課 手崎課長、岸田課長代理、山崎係長
西村主幹、吉田主査、野村主査、間塚主事

IV アジェンダ

1 開会のあいさつ

- 事務局 ・開会を宣言。
・長浜市未来創造部政策デザイン課 課長より挨拶。

2 事業報告

（1）課直轄事業

- 事務局 ・令和7年度の直轄事業実施内容について、各事業の受注者から説明。
・資料は別添2～4のとおり。

（2）他部局等事業

- 事務局 ・令和7年度その他部局等事業実施内容について、事務局から説明。
・資料は別添1のとおり。

■質疑応答

- 茂森委員 ・ビジョン実現にあたって、2050年のゴールに向けては事業、施策の「積み上げ式」で形成していくのか、それとも、「バックキャスト」で一定の時期までに必要な事業施策を打っていくのか。どういう進捗管理をしていくのかお聞きしたい。
- 事務局 ・南長浜まちづくりビジョン for2050 は、作成段階から未来からのバックキャスト方式で作りに上げてきた。将来展望のロードマップからもわかるとおり2050年を目標として、どういう時期にどのような施策を行うかを示している。

- ・そういった意味では KPI,KGI に代わるものがロードマップにはなるが、ご指摘のとおり具体的な定量指標とはいえないレベルであることと、中間的な見直し時期等については明言していないため、その点は今後の課題であると認識している。
- 市岡委員
 - ・多くの事業が進んでおり、驚いているとともに感動している。
 - ・今年度事業の中で“自然発生的”に、行政からの指示や委託が無いにも関わらず始まったものはあるのか。
- 事務局
 - ・他部局事業の、「田村東畑地区地区計画」は民間事業者から計画提案があり、最終的に市が計画策定している。
 - ・また、「湖岸活用イベント」は、2つとも民間事業者が自ら企画して実行している。
 - ・少し主旨とは異なるかもしれないが、コープしが様の買い物支援事業も地域の要望に対して企業が手を挙げているものとなる。
- 市岡委員
 - ・私自身どのように自然発生的なものを発生させられるかという答えはもっていないが、南長浜地域でこういった取組が広がっていけば良いと感じた。

3 次年度直轄事業（予定）

- 事務局
 - ・別添資料1に基づき、令和8年度事業について説明。

4 意見交換—ビジョン実現に向けて—

- 岩崎委員長
 - ・一人ずつ順番にご意見いただきたい。
- 茂森委員
 - ・2050年のゴールに向けてロングスパンで物事を考えると、少なくとも3～5年の短期目標を決めた方が良いと思う。状態ゴールが決まれば、来年度の施策に対してどの分野にどういう寄与をするのか、どこのKPIを期待するのか、といった事業とビジョンの接続が可能になる。
 - ・また、南長浜でやることの意味付け、定義を明確にして、関わっていただいた方々に広く盛り上がっていただくことが重要。実証実験フィールドとしての南長浜という位置付けができると良いと思う。
 - ・今年度のイベント報告を聞いて、天候等の配慮が難しいと感じた。実施においては開催場所の設計等、プロポーザルでやっておかないといけないのではないかと感じた。
- 瀧澤委員
 - ・事業が単体で動いていて、何のためにされている事業なのかが見えづらい状況になっていると感じる。
 - ・ブランディングとして、共通のロゴや色等を設けて、視覚的に南長浜のプロジェクトに属するものとして発信すべきと思う。
- 小出委員
 - ・長浜市のふるさと納税のデータを見ると、結構な数の市民が寄付をし

- ・おられて、大きな金額が市外に出ていっていることがわかる。
 - ・ガバメントクラウドファンディングを行う際は、対外的なアナウンスだけでなく、市民に対するアナウンスを積極的にやってほしい。
 - ・節税目的でやっているだけで返礼品はいらないという人も一定数は存在する。新たな寄付の形というのをうまく周知して、市外にお金が逃げていく流れを止めてほしいと感じた。
- 岩嵯委員長
- ・ふるさと納税について、市民は同市に対して寄付できる仕組みになっていたか。
- 小出委員
- ・返礼品が手に入らないだけで、寄付自体は可能である。
- 市岡委員
- ・すでに意見が出ているが、中間目標を立てるべきと思う。
 - ・今年度、素敵なイベントや取組が行われていたが、それがどこに向かっていくのかを示していくことで、より良い進め方ができそうだと感じた。
- 今泉委員
- ・ビジョン検討の段階で地域の様々な「資本」の議論があったかと思う。どの事業が、どの資本の維持や発展に繋がっていくのか、ということも念頭に置いて KPI の設定をしていけば良いのではと思う。
 - ・ある時点において、資本がどういう状態になっていけば良いか。あるいは、今は存在しないが、未来にあるべき資本があれば、どの事業でどの段階で作っていくか。そういう視点で考えればと思う。
- 今庄委員
- ・個々の事業の説明はよくわかるが、これまで検討会議でまとめあげたビジョンの報告会としては不十分だと感じた。
 - ・事業とビジョンの関連性だとか、事業同士の関係性、個々の事業がどういうことに今後繋がっていくのか、そういった点をまとめた報告が必要だったのではと感じる。
 - ・関連性を分かりやすくして一体感を出すためにも、プロジェクトのブランディングについては進めるべきと思う。
 - ・長期ビジョンなので、時間軸も含めて全体像が見える形がわかりやすいと思う。検討してほしい。
- 藤居委員
- ・2050年のゴールをブレイクダウンして、どの事業がどれだけ、どの部分で効果があったのか、明確になっていないため考えていく必要がある。
 - ・2050年にビジョンで示す状態に持っていきにあたり、特にハードの面というのは投資もかかる場所であるため、改めて必要なのかどうか、必要ならばいつ時点で投資すべきなのか、そこを先に検討していても良いかもしれない。ガバメントクラウドファンディングだけでなく負担付の寄付など手法は様々な存在するので、そこも絡めていければ良いのではないだろうか。
 - ・広域の視点が必要で、長浜北部の地域や米原エリアとの接続、滋賀県

全域で対応が必要な部分など、ビジョン実現に向けては単体で考えてはいけないと思う。

熊谷委員

- ・パートナー企業について、来てほしい業種や数というのは順調に集まっているのか気になった。足りないのであれば、各業種で活躍している委員にも協力依頼しながら集めていけると良い動きができると思う。
- ・2050年までには市長が変わるとか、市の予算が取りづらい状況になることも予想される。ビジョンの事業は全部重要なものであるが、一定程度優先順位をつけても良いかもしれない。

岩嵯委員長
茂森委員

- ・優先的に取り組むべき事業や視座、アイデアはあるか。
- ・限られた資産の中でやる以上は優先度をつけることには賛成。
- ・いかにワクワクさせるかどうか。期待感が出てくれれば関わりたい、参画したいと思う仲間も増えてくる。網羅的にやってしまうと濃度が薄くなってしまうので、短期的なKPIを定めたなかで爪痕が残るような挑戦的なイベントを1発打ち出す方が効果的だと思う。
- ・外の人に、「南長浜は面白そうだね」と言ってもらえることが住んでいる人にとっての気づきやシビックプライドに繋がる。

岩嵯委員長

- ・ビジョンに、田村山の上に展望カフェみたいなものを作って、ドローンで物資を運ぶというアイデアがあったと思うが、そういう話題になりそうな象徴的なもののイメージか。
- ・打ち上げ花火のようなものばかりでは問題であるが、そういったことがキッカケとなって外から投資が起こることが、一つのゴールイメージかと思う。

今庄委員

- ・民間が投資できるような環境整備が必要かと思う。実際に、ある企業に南長浜を紹介したが、土地を民間で持てないこともあって投資には至らなかった。
- ・一方で、コントロールできないような状態になると乱開発になってしまうので、バランスが重要になってくる。

岩嵯委員長

- ・ビジョンの検討のなかで、ゲートウェイとインキュベーション、ライフスタイルという三つのテーマがあったと思う。三つの要素の中に、事業のアイデアが詰まっていて、あの三つの区切りで少し見直していく、将来やっていくべきことを考えていくと、領域横断性があり、且つ方向性が定まったものにもなっていくのではないかという印象を持った。

市岡委員

- ・南長浜まちづくりビジョン for2050は、様々な主体が実施することを混ぜて書かれたビジョンになっていると思う。官がやることもあれば民がやることもあれば、市民がやることもある。
- ・それぞれの役割分担をはっきりさせて、整理するというのも一つの手

ではないだろうか。

岩嵯委員長

・主体がやや曖昧になっているのは確かである。

・「官」だけで行うことは難しい世の中になっているため、「民」やバイオ大学のような「学」が入り込む余地余白を作れると良いと思う。

瀧澤委員

・優先順位という意味では、南長浜のブランドイメージ、「傘」の部分を先に作っていくべきと感じる。

・バラバラに事業が動いているなかで、ブランディングとしてぱっと見て「南長浜」と分かることが重要だと思う。

・市のサイトのなかにLP ページがあったり、「note」に掲載したり、やりようはあると思う。

・アイコン的なものであれば良いとは思うので、例えば「ロゴ」や「キーカラー」といった共通項があれば認知されて広がっていくだろう。企業や個人においても、強いブランドがあると、より参画やコラボしやすい状態になる。

岩嵯委員長

・谷口委員、近くに住んでおられるなかで、南長浜の変化など何か感じる部分はあるか。

谷口委員

・今年度、田村駅前が綺麗に整備されたが、駅前が整備されて、どのように人流が変わったかは十分に見られていない。

・形が変わると、関わり方も変わってくると思うが、それに合わせて何か仕掛けができると思うと良いと感じた。

岩嵯委員長

・来期の事業の中に、中長期的にプランをみんなで考えるものがあるので、本日、皆さんからいただいた議論、意見を踏まえて、さらに南長浜がより良くなるような活動を進めていただければと思う。

5 その他

事務局

・市HP、南ながはま通信「みんなが」の説明

以上